

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年3月24日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4672000058
法人名	社会福祉法人 尚徳会
事業所名	グループホーム 遊花里
所在地	鹿児島県指宿市山川岡児ヶ水1211番地 (電話) 0993-35-0220
自己評価作成日	平成28年2月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成28年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・社会福祉法人が経営する特別養護老人ホームを母体とした併設施設であり、法人嘱託医・看護師による医療面の連携・協力体制や同一敷地内の併設事業所である、デイサービスセンターやホームヘルプステーション、在宅介護支援センター等との連携・応援体制も整っています。
- ・入所者と一緒にプランターで花を育てたり、農園で季節の野菜を栽培し、収穫した野菜を使った料理を楽しんでいます。
- ・レクリエーションの中に習字や生け花、アロママッサージ等を取り入れて、日々の生活に楽しみや喜びを感じられるよう支援しています。
- ・職員一人ひとりが入所者の「その人らしい生活」とは何かということを常に考えながら、個々のペースに合わせて関わりを持つよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、特別養護老人ホームを母体とした関連施設で、同敷地内にヘルプステーション、デイサービスセンター、在宅介護支援センター、ユニット型の特養施設などが併設されている。近距離に法人の医療施設もあり、24時間医療連携体制が整っており、緊急時の対応がなされている。
- ・法人施設全体の管理者会議で情報を共有し、防災訓練時の相互協力体制や文化祭では法人の全福祉施設から参加し、事業所の活性化につながっている。
- ・同敷地内にある公園での花見や畑で野菜を栽培して収穫したり、リハビリ体操や書道・生花・アロマ教室等があり、利用者が生き生きとした表情で趣味や活動に取り組んでいる。
- ・家族に年4回、利用者の日々の生活や活動の状況を写真付きで「ゆうかりメール」として郵送し家族に喜ばれている。
- ・職員はお互いを尊敬しあい、高め合う姿勢で日々研鑽している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	従来の「信頼と安心の創造」に加え、全職員で意見を出し合い、新しく法人理念を作った。理念は家族も確認できるように玄関に掲示し、ミーティングの時は職員で復唱している。また認知症介護について勉強会を実施し、人権を尊重した基本的ケアを実践している。	理念は地域密着型サービスを踏まえたものに見直し、スタッフルームや玄関に掲示している。毎月のミーティング時に唱和し理念を共有し実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	徳光苑30周年記念に地域の名産「さつま芋」と「徳光スイカ」をモチーフにして生まれた、ゆるキャラの「TOKKOU君」と「IMOKOちゃん」と一緒に、地域の行事に参加したり、施設の行事などへの参加を呼びかけ、地域交流を図っている。またデイサービスと連携して、毎年、地域の小・高校生との交流も推進している。	自治会へ法人として加入している。地域行事の敬老会や夏祭り・六月燈・高校のミニ文化祭などに参加している。法人主催の秋祭りや合同のリハビリ大会に地域住民を招待するなど交流を図っている。さつま芋やスイカ・魚などの差し入れなどもある。小・中学生の職場体験の受け入れ、文化祭時の高校生のボランティアとの交流も行っている。管理者は地域の要請で公民館講座の講師も務めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	法人が主体となり、家族や地域住民を対象とした勉強会や地域交流文化講演活動を開催し、地域とのつながりを強めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、ホームの生活状況やひやり・はっと、地域交流行事、外部評価の結果等の報告を行い、委員からの意見をサービスの向上に役立てている。</p>	<p>会議は定期的に行われ、事業所の行事報告やヒヤリハット等を行い、そこでの意見で、おやつに膨れ菓子作りをしたり、地域の福祉センターで認知症についての講演やおむつ交換教室などの講座を年6回行っている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議や市のグループホーム連絡協議会へ参加し、最新の情報を提供してもらうとともに、運営上の疑問点などを相談している。</p>	<p>市担当者とは窓口に出向いて相談や助言や情報の提供を受けている。市主催の研修会に参加して情報収集等に努め協力関係を築いている。事業所の運営推進会議に参加してもらっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>事業所全体で安全管理委員会を設置し、定期的に会議を開催して身体拘束ゼロへの理解を持ち、拘束をしないケアを実践している。</p>	<p>法人全体の管理者会議を月1回開催し身体拘束に関する研修を行い、ホーム職員に伝達研修を実施している。年2回身体拘束廃止推進委員会の研修会や2ユニット合同で拘束をしないケアの実践に取り組み、事例を用いて勉強会を実施し、職員の理解を深め、利用者の安全で自由な生活を支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	勉強会の年間計画に虐待の防止についてのテーマを設け、虐待のないより良いケアを実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会の年間計画に権利擁護に関するテーマを設け、制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所契約時は、入所者や家族等に不明な点がないか確認しながら、利用契約書・重要事項説明書の説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> ・2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、入所者や家族から意見や要望を聞き、運営に反映させている。 ・家族が面会に来た時は積極的に関わりを持ち、話しやすい雰囲気作りに努めている。 ・入所契約時、苦情相談窓口があることを説明し、玄関に意見箱を設置している。 	利用者とは日頃から思いを聞いている。家族とは年4回生活状況を書いた手紙に、写真を添えた「ゆうかりメール」を家族に郵送したり、花見を兼ねて家族会を開催し意見を聞いている。面会時等に職員から声かけするなど、話しやすい雰囲気作りに努め、意見を運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、ユニットミーティングを開催して意見を交換し、会議録を提出、報告するシステムを採用している。 毎月、管理職会議を開催し、各事業所の管理者から現場の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。 	申し送りや毎月のユニットミーティングで意見や提案を聞いている。毎月の管理者会議で意見交換して運営に反映させている。日常的に管理者は職員の個別の相談も受けて対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> 人事考課で自己評価及び管理職評価システムを採用し、スキル向上に取り組んでいる。 職員の資格取得や自己研鑽のための各種研修への参加を推進し、職員が向上心を持って働けるよう職能評価を行っている。 		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> 年間の内部研修計画書を作成し、それに沿って実施している。また外部研修後は復命書を作成、ミーティングの中で発表し、皆で共有できるようにしている。 外部からの講師を招いての研修会も実施している。 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県・地区のグループホーム連絡協議会に入会し、他施設への見学や他施設からの見学者の受け入れにより、意見交換や交流の場が持てるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	支援センターと連携して入所希望者の家庭訪問を実施したり、入所施設への事前訪問を行い、困っていることや不安に思っていること等を聞き、相談に乗っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所予定者の家族と面会し、これまでの経緯を聞き、家族の気持ちに寄り添いながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった場合は、法人全事業所の管理職会議の中で、他事業所の管理者と相談して必要な支援を一緒に考えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者と職員の関係作りを進める中で、本人の思いを知ることにも努め、その思いを尊重し支援している。また支援する側でなく、利用者本人が選択できるよう声掛けを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個別に生活状況やレクリエーション等について書いたものを「ゆうかりメール」という形で家族へ定期的に郵送し、本人の状況を報告している。また面会時には家族の要望や意見を聞き、共に入所者を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の理解や協力に基づき、本人宅への帰宅や希望された場所への外出等を行っている。 ・電話や手紙で交流ができるよう守秘義務に注意しながら働きかけている。 	入居前の生活が継続できるように農業や書道・活け花等に取り組んだり、昔の同僚や知人の面会等、馴染みの人との交流が継続できるよう支援に努めている。遠方の家族とも年賀状や電話での交流を支援している。理美容室や買い物など馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・天気の良い日は、敷地内の公園に行きテーブルを囲み皆さんでお茶を飲んでいる。 ・職員は利用者が孤立しないよう間に入り、挨拶や会話を補助し、気持ち良く支え合えるような支援に努めている。 		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関や他施設へ移られた利用者の所へ面会に行き情報提供をしたり、その家族が立ち寄った際には相談に乗ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意見交換会を実施し、入所者の希望など聞く機会を設けている。また職員間で連携しその都度本人の言動を記録し、何を望んでいるのか職員全員で考え、共有している。	毎月利用者と職員の意見交換会を実施し、利用者の要望等を聞いている。「出かけたい」「桜を見たい」など、思いを表出される。困難な場合は家族や友人知人から情報を得て本人中心に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所前に生活歴や家での過ごし方など、家族や支援センターから聞き取りを行っている。また入所前の事業所に確認、連携する事もある。 ・入所後、関係を築いていく中で得た情報を職員全員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子など職員間で情報共有するようにしている。また一人ひとりの生活リズムや心身状態などを記録し、本人の全体像の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・本人や家族の思いを聞き、また職員間で意見を出し合い、介護計画に取り入れている。作成後は、家族に説明しサインをもらっている。 ・月1回の介護経過、3ヶ月に1回のモニタリング、6ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っている。	本人や家族の希望を聞き、担当職員や看護師・医師等で話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月に1回のモニタリング、6ヶ月から1年で見直しを行っている。状況変化時にはその都度見直しを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入所者の状態の変化や気づきなどを記録し、介護計画の見直しに活かしている。 ・申し送りノートを活用し、職員間で情報を共有している。 		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>医療連携体制を活かし、入所者の身体状況の変化を早めに捉え、嘱託医や看護師、栄養士との連携を図っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>小・中学生の介護体験を受け入れ、交流を深めている。また総合防災訓練を年2回行い、火災の時の初期消火・避難誘導等について分遣所の指導を受けている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・嘱託医の週2回の往診がある。また、24時間体制で連絡ができるようになっており、緊急な対応もできている。 ・本人、家族が選ぶ医療機関がある場合は、そこに受診できるよう協力している。 	<p>本人及び家族の希望するかかりつけ医に、家族対応で受診している。看護師による毎日の健康管理、嘱託医の往診及び24時間医療連携により適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>事業所の看護師、または併設施設の看護職員と連携しながら健康管理を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際は介護サマリーを作成し、入所者が安心して治療を受けられるよう入院先へ情報提供を行っている。また入院先へ面会に行ったり、家族やMSWと連絡を取りながら病状の把握に努め、嘱託医へ経過報告し、早期に退院できるよう連携を図っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した入所者に対しては、家族と話し合いを持ち、事業所で出来ることを十分に説明するとともに、嘱託医へ相談して状態に応じた対応を行っている。</p>	<p>入所時に重度化や終末期に向けた事業所の方針を説明している。特別養護老人ホームへの申し込みを行う利用者・家族もある。重度化した場合は、主治医からの病状説明後、家族に事業所で出来る事を説明し、家族の意向に沿って支援している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の対応などマニュアルを作成し、勉強会やミーティング後に確認しながら、実践力を身に付けている。不明な点はその都度、嘱託医や看護師へ指導を仰ぎ理解するよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月実施している訓練では火災だけでなく、地震・津波なども想定し行っている。 ・緊急連絡網を作成し、法人全体で年2回夜間招集訓練を行っている。 ・地区の公民館と災害時緊急避難指定施設として使用できるように申し合わせができています。 	<p>毎月の避難訓練と法人全体で実施する年2回の総合防災訓練を消防署立会で実施し、夜間招集訓練も行い、住民も参加している。消火訓練や非常灯の点検・障害となるものが廊下に置いてないか、毎回火元を変えて実施している。災害時は法人全体で水やレトルト食品・缶詰などの食料品、オムツ、医療用備品等を備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	更衣・排泄時はカーテンやドアを閉めるようにし、一人ひとりのプライバシー・自尊心を傷付けないよう配慮した対応をしている。また、事業所全体で人権擁護に関する勉強会を実施している。	法人全体の勉強会に講師を招いて接遇や人権擁護・プライバシー保護についての研修を行っている。毎月事業所でも勉強会を実施し、入室時はノックしドアを閉めるとか、排泄介助時の言葉や声かけはさりげなく行う等、対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のあらゆる場面や意見交換会で入所者の希望など聞く機会を設け、自分で決められる場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その時々体調によって、個々のペースに合わせた生活をして頂けるよう心掛けている。また、その日をどのように過ごしたいのか、何をしたら楽しんでもらえるか等、常に考えながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	・起床後の洗顔や整髪、身だしなみを整える支援を行っている。入浴の際は、本人がその時の気分に合わせて洋服選びができるよう支援している。 ・理美容は希望の業者を手配している。また行事や外出の際は化粧などおしゃれをして出かけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入所者と職員と一緒に食事の準備や盛り付け等を行っている。また家庭菜園で収穫した野菜で入所者と一緒に漬け物を作り、食卓に出している。 ・入所者の食の好みや嚥下機能の状態を把握し、食事の時間を楽しく過ごせるよう工夫している。 	<p>利用者の嗜好調査を行い、母体法人の給食センターで個々に応じた食事を作っている。主食やおやつはホームで作り、菜園で採れた野菜類を漬物にして食卓に出している。利用者と職員と一緒に盛り付けや後片付け・台拭き・茶碗洗いなどを行っている。誕生日のケーキやおやつを作ったり、庭や公園で食事をしたり、外食も楽しんでいる。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養士の指導の下、栄養管理している。 ・食事・水分チェック表を用いて、摂取量を把握している。状態に応じて声かけや介助を行い、また時間をずらしたり、好きな物を勧めたりして工夫している。 		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後に義歯の洗浄や歯磨きの声掛け、誘導を行い口腔ケアに努めている。 ・義歯の不整合や口腔内の異常等、協力医療機関の歯科医に往診を依頼し診てもらっている。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作り、一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、入所者の排泄サインを見逃さないように気を付け、声掛け・トイレ誘導を行っている。また、尿取りパットを昼夜使い分ける工夫をしている。	排泄パターンを把握し声かけや誘導を行いトイレでの排泄を支援している。車椅子利用者も1部介助のみで自力で排泄している。日中は布パンツが多く、パットを使用し自立に向けた支援を行っている。失禁時はシャワー浴や入浴で保清に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表から排便パターンを把握し、便秘がちな入所者に対しては、好みの飲み物を準備して水分摂取を勧め、昼間の活動を促しながら自然排便へ繋げている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴を楽しみにしている入所者が多く、一人ひとりの入浴習慣や好みの温度に配慮しながら支援している。	入浴は週3回午後から支援している。希望があれば同性介助や立位不安定の利用者には2人介助を行っている。好みに応じて入浴剤の使用や湯温度や時間調整をして、ゆっくり楽しんでもらっている。入浴拒否があっても無理強いはしないで様子を見て声かけを行い、入浴後は気持ちがいいと喜ばれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している	・昼寝や就寝時間は自由であり、 本人のペースに合わせている。 ・眠れない時には、温かい飲み 物を勧めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的 や副作用、用法や用量について理 解しており、服薬の支援と症状の 変化の確認に努めている	処方箋で薬の効能や副作用等を 確認しており、服薬支援を行っ ている。症状に変化が見られる 時は看護師へ報告し、嘱託医の 往診や必要に応じて受診等の体 制ができている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ご せるように、一人ひとりの生活暦 や力を活かした役割、嗜好品、楽 しみごと、気分転換等の支援をし ている	一人ひとりの生活歴や得意な事 等を把握し、それを活かした趣 味活動（塗り絵・習字等）や役 割（食事の盛り付け・洗濯物た たみ等）などを支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそっ て、戸外に出かけられるように支 援に努めている。また、普段は行 けないような場所でも、本人の 希望を把握し、家族や地域の人 々と協力しながら出かけられる ように支援している。	天気の良い日は敷地内にある 「きずな公園」へ散歩に出かけ たり、庭に出て青空喫茶を楽し んでいる。また入所者の希望を 聞き、家族と協力して外出でき るよう支援している。	日常的には庭や敷地内の公園や 近隣を散歩している。年間計画 で弁当持参の花見等に出かけ たり、池田湖やフラワーパーク にドライブで楽しんでいる。家 族の協力を得て法事や孫の結 婚式に出席したり、外食等の 外出支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入所者、家族との相談の上、それぞれの希望に応じて金銭管理の支援をしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族からの電話を取り次いだり、自ら電話を利用される方もいる。 ・家族から荷物が届いた時は、お礼の電話を掛けたり、手紙を書くことを支援している。 		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の花々や設営に気を配り、四季を感じられるよう工夫している。また台所の音や香りなど生活感があって、居心地よく過ごせるよう配慮している。</p>	<p>ホールは掃き出し窓からの十分な採光と空気清浄機があり、臭いもなく、適度な温度・湿度も保たれて、適切な室内環境が整えられている。季節の花が活けられ、利用者の写真や吊るし雛や入居者と職員合作の干支の申の壁画を飾っている。利用者は、ソファでくつろいだりして居心地良く過ごせるよう配慮されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールのソファがくつろぎの場になっており、気の合う入所者同士で思い思いに過ごしている。また独りになりたい時は、玄関ホールにテーブルと椅子を置き自由に過ごせるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・使い慣れた家具や物品等を居室へ持ち込んでいただけるよう、家族に働きかけている。 ・テレビを持って来たり、家族の写真や自分の作品など好みの物を飾ったりして、居心地よく過ごせるよう工夫している。 	<p>居室には普通ベットや電動ベットが利用者の状態に合わせて設置され、洗面台や2段式の床頭台・加湿器・椅子などがある。使い慣れたタンスやテレビ・ひ孫たちの写真・家族からの絵手紙などが壁に貼られ、その人らしい配置の居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・廊下には転倒予防の手すりを設置し、床はバリアフリーとなっており、利用者一人ひとりの身体機能に合わせた動きができるようにしている。 ・居室やトイレの場所が分からない方のため、入口の所に表札や貼り紙をして、混乱を防いでいる。 		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない